

# 下関駅前広場・連絡通路維持管理計画【概要版】

## 第1章 計画の概要（計画 1ページ）

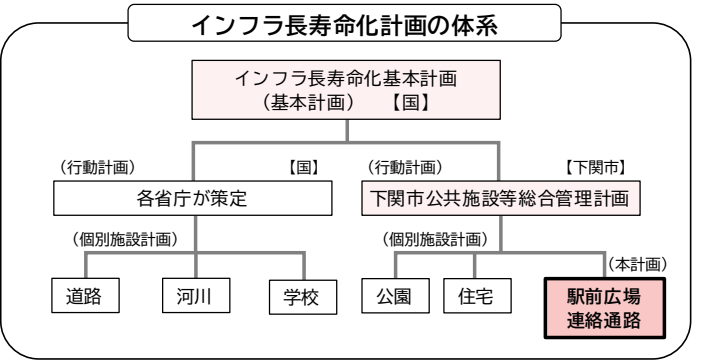
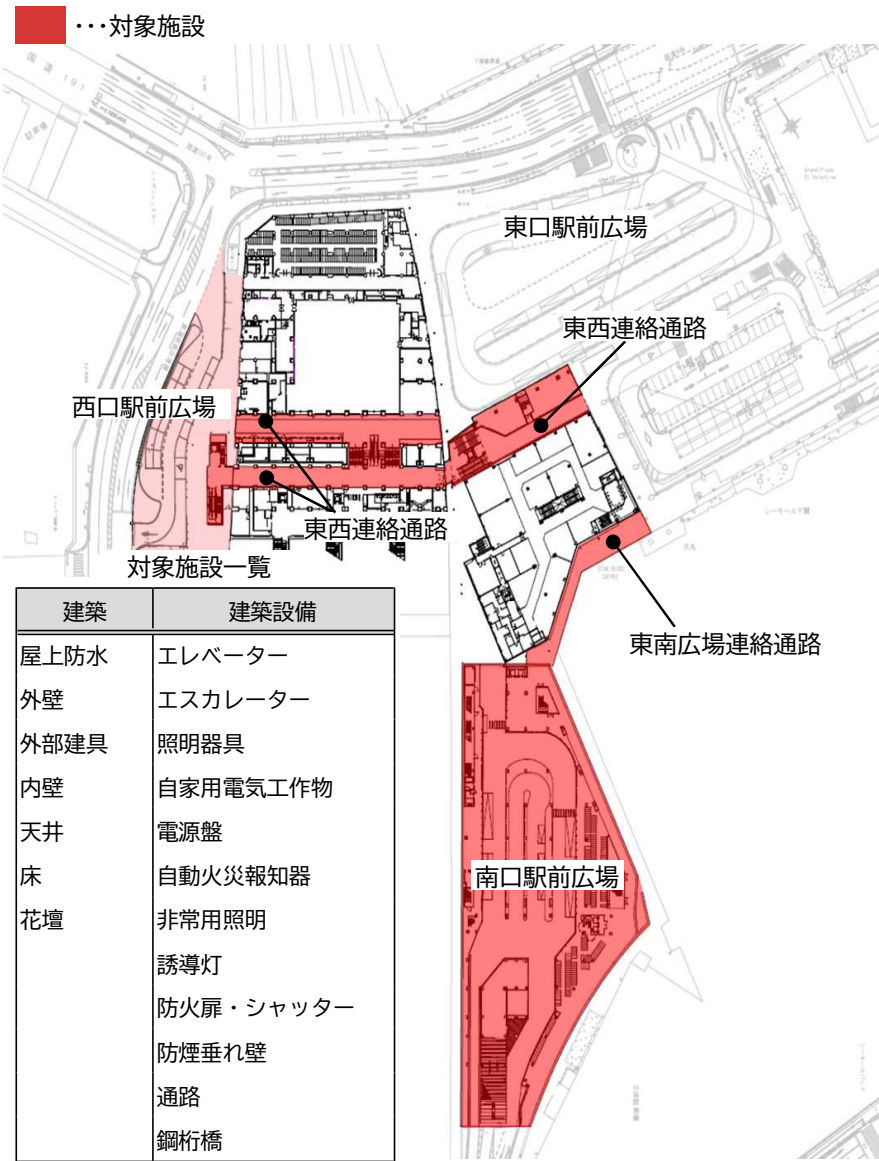
- 1 背景
- 計画対象施設 東西・東南広場連絡通路、東口・西口駅前広場
  - 「下関市公共施設等総合管理計画」における「インフラ施設」として位置づけ
  - 各施設のうち、東西連絡通路は、市と鉄道事業者等とが管理している
  - 各施設は整備後10年以上を経過しており、今後老朽化による性能水準が低下してくる時期となる

計画的な維持管理・コストの平準化が重要

- 2 目的
- 中長期的な維持管理コストの縮減及び平準化
  - 「事後修繕」から「予防保全」に転換

- 3 計画の期間
- 令和7年度から令和16年度の10年間（情勢の変化があった場合は見直し）

### 4 対象施設の概要



## 第2章 施設の現状（計画 7ページ）

- 1 施設の役割と利用状況
- 駅前広場及び連絡通路は「下関市都市計画マスタープラン」では「都市拠点」に位置づけられている
  - 下関駅は1日約2万人の乗降者があり、誰もが安全で快適に利用できるよう24時間通行可能な連絡通路として整備
  - バリアフリー化推進のため、エレベーターやエスカレーターの昇降施設を整備し、周辺商業施設等へのアクセス性を高め市民の利便性向上に寄与している
- 2 施設の状況
- 施設の状況  
整備後経過年数は11年に対し、耐用年数は6～30年（平均16年 鋼桁橋50年を除く）
  - 修繕履歴  
平成27年から令和6年までの比較（10年間）  
予算額 計 13,926千円  
決算額 計 17,408千円（差額3,482千円）
  - 法定点検  
消防法、建築基準法、電気事業法、道路法に基づく法定点検を実施

- 3 対策の優先順位の考え方
- 劣化進行状況や点検結果等から総合的に判断
  - 原則として、予防保全は築年数の経過しているものから順次実施

## 第3章 施設への対策（計画 11ページ）

- 1 対策内容と実施時期
- 建築物 …… 鉄道事業者等と一体的な施行が必要な部位については、相互に情報交換を行い、対策内容と実施時期を協議する
  - 橋梁（鋼桁橋） …… 「下関市橋梁長寿命化修繕計画」に準じ、橋梁点検結果により延命化を図る
  - 建築設備等 …… 各種点検結果に基づき、適時交換や対策を図る
- 2 予防保全の時期と概算費用
- 中長期的な維持管理費の平準化に努める
  - 「第3章 1. 対策内容と実施時期」を原則とし、個々の劣化状況に応じて柔軟に対応

維持管理コスト（イメージ）

- ◎予防保全を原則として、計画的な修繕及び維持管理コストの平準化に努める
- ◎エレベーター及びエスカレーター更新の際は一時的に維持管理費が増加する

### 予防保全と概算費用

年 度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
対象施設経過年数	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
各施設の更新時期 耐用年数 など	計画策定	10,000～20,900千円／年度								※
概算事業費合計（単位：千円）	320	10,000	12,300	12,100	12,900	13,760	14,920	19,100	20,900	200,000

※エレベーター・エスカレーター更新時期：事業費をR16年度から3か年で平準化